

平成 27 年度事業報告書

I 会 議

1 総 会

- (1) 第 60 回通常総会 平成 27 年 6 月 29 日 仙台市・JA ビル宮城 10 階第 1 会議室
会員総数 66 会員
出席会員数 65 会員 (本人出席 40 会員、委任状 25 会員)
議 案
第 1 号議案 平成 26 年度事業報告書、決算報告書並びに公益目的支出計画実施報告書の承認に関する件
第 2 号議案 役員補選に関する件

2 理 事 会

- (1) 第 1 回理事会 平成 27 年 6 月 9 日 仙台市・JA ビル宮城 10 階第 2 会議室
議 案
第 1 号議案 平成 26 年度事業報告書、決算報告書(案)並びに公益目的支出計画実施報告書の承認について
第 2 号議案 肉用子牛生産者補給金制度に係る第 5 業務対象年間終了に伴う生産者積立準備金残額の返還について
第 3 号議案 肉用子牛生産者補給金制度第 6 業務対象年間(平成 27~31 年度)における肉用子牛 1 頭当たりの生産者負担金単価について
第 4 号議案 役員補選について
第 5 号議案 通常総会の開催期日並びに提出議案について
報告事項 1) 肉用牛肥育経営緊急支援事業に係る緊急支援金の返還について
2) 事業所の統廃合について
- (2) 第 2 回理事会 平成 27 年 6 月 29 日 仙台市・JA ビル宮城 10 階第 2 会議室
議 案
第 1 号議案 副会長の互選について
- (3) 第 3 回理事会 平成 28 年 3 月 15 日 仙台市・JA ビル宮城 10 階第 2 会議室
議 案
第 1 号議案 平成 27 年度事業計画並びに収支予算の変更について
第 2 号議案 平成 28 年度事業計画並びに収支予算(案)について
第 3 号議案 平成 28 年度一時借入金最高限度額について
第 4 号議案 個人情報保護規程の一部改正について
報告事項 1) 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業(畜産クラスター事業)について
2) 肉用牛肥育経営緊急支援事業に係る緊急支援金等の返還状況について
3) 事業所の統廃合について

3 監 事 会

- 監査事項 平成 27 年 6 月 5 日 宮城県畜産協会 2 階会議室
平成 26 年度事業報告、決算報告並びに公益目的支出計画実施報告に関する監査

II 畜産経営支援対策事業

1 畜産経営技術高度化促進事業（宮城県：実績額 5,008,058 円）

畜産をめぐる情勢の変化に対応し、経営感覚に優れ生産性の高い畜産経営体の育成と指導者の養成を図り、経営体のレベルの向上と実態に応じた診断指導、調査等総合的な支援指導を実施し、畜産経営の安定と生産基盤の育成強化に努めた。

(1) 畜産経営支援指導研究会の開催

畜産経営技術指導を効果的かつ効率的に実施するため、畜産の実情に対応した将来の畜産経営指導の展開方向、具体的な指導内容・方法及び関係機関の機能分担等について検討協議するため、県及び関係団体をもって構成する総合委員会を開催した。

区 分	開 催 年 月 日	開催場所	出席者数	内 容
総合委員会	平成 27 年 7 月 8 日	仙台市	17 名	①畜産施策の基本方針と主要施策について ②畜産経営技術高度化促進事業について

(2) 畜産コンサルタント団の設置

大学、県及び畜産関係団体、学識経験者等幅広い分野の専門家をもって構成する畜産コンサルタント団を設置し、畜産経営体からの診断及び巡回指導要請に対応した指導を実施した。

※ 畜産コンサルタント団設置の状況

総括畜産コンサルタント	畜産コンサルタント	非常勤畜産コンサルタント
2 名	9 名	24 名

(3) 地域畜産経営体相談窓口指導

畜産経営体の支援指導を円滑に推進するため、日常的な経営体の状況把握・指導、地域における指導の連絡調整等指導相談の窓口を設置し、畜産経営体等からの延 123 件の相談・要請に対応した支援指導を実施した。

区 分	設置場所	担当地域
常 設	宮城県畜産協会 本 所	県一円
	宮城県畜産協会 仙南事業所	仙台、大河原管内
	宮城県畜産協会 中央事業所	大崎、石巻管内
	宮城県畜産協会 仙北事業所	登米、栗原管内
臨 時	みやぎ総合家畜市場（市場開設時）	県一円

(4) 畜産経営技術指導用機器の整備

畜産経営体の支援指導を効果的かつ効率的に実施するため、コンピューター等関連機器を整備した。

(5) 畜産経営技術支援指導

畜産経営体の要請に基づき、その経営水準、実態等に対応した診断指導を実施し、経営改善のための効果的な支援指導を実施した。

畜産経営技術の支援指導実施状況（個別指導）

経営区分	改善指導	経営管理 技術指導	フォローアップ 指 導	計	備 考
酪 農	1 件	26 件	4 件	31 件	
肉用牛	3 件	21 件	0 件	24 件	
養 豚	0 件	5 件	0 件	5 件	
養 鶏	0 件	0 件	0 件	0 件	
計	4 件	52 件	4 件	60 件	

(6) 情報提供体制事業

パソコン通信網を活用した総合的な畜産関係情報の提供を図るため、ネットワークの開設と各種情報のデータベースを構築し、畜産経営技術の高度化に対応した効率的な支援指導を実施した。

(7) 畜産経営セミナー、交流会の開催

畜産経営における生産基盤の強化等を図るため、飼養管理の改善及び販売戦略等をテーマにセミナーを開催した。

開催年月日	開催場所	参加人数	セミナーの具体的内容
平成 27 年 7 月 31 日	大崎市	65 名	飼料用米の利用による養豚経営の展望
平成 28 年 2 月 19 日	大崎市	82 名	養豚生産者サイドからの販売戦略
平成 28 年 2 月 26 日	大崎市	165 名	肥育農家に好まれる子牛づくり 子牛の下痢予防について
平成 28 年 3 月 11 日	美里町	22 名	全国モーモー母ちゃんの集い IN あきた 大会報告他

(8) 研修事業への参加

畜産経営指導事業並びに組織運営に必要な専門的知識及び技術の習得を図るため、中央畜産会等が主催する研修等に職員を派遣し、事業の円滑な推進に努めた。

開催年月日	開催場所	参加 人員	研修内容
平成 27 年 6 月 9～11 日	福島県 西郷村	1 名	中央畜産技術研修会(新任畜産技術職員)
平成 27 年 7 月 1～2 日	東京都	1 名	畜産クラスター全国推進事業に係る普及活動 員養成研修会
平成 27 年 7 月 6～7 日	秋田県 由利本荘市	1 名	第 8 回全国モーモー母ちゃんの集い IN あきた
平成 27 年 8 月 26～28 日	東京都	1 名	経営指導技術向上事業に係る新任基礎研修
平成 27 年 10 月 16 日	仙台市	1 名	TPP 大筋合意についての東北ブロック意見交 換会(畜産品目関係)について
平成 27 年 12 月 4 日	東京都	1 名	畜産クラスター全国推進事業に係る普及セミ ナー
平成 27 年 12 月 11 日	仙台市	2 名	放射性物質に対応した畜産物生産を推進する ための産地指導者養成研修会及び畜産物の安 全性に関する消費者意識と安全な畜産物生産 についてのシンポジウム

開催年月日	開催場所	参加人員	研修内容
平成 28 年 1 月 12 日	仙台市	1 名	新農政キャラバン東北ブロック説明会
平成 28 年 1 月 27 日	東京都	1 名	畜産クラスター全国推進事業に係る第 2 回畜産クラスター普及セミナー
平成 28 年 3 月 2 日	仙台市	1 名	平成 27 年度第 2 回東北地域飼料増産行動会議

2 畜産経営技術指導事業（地方競馬全国協会：実績額 9,391,000 円）

畜産農家の育成と経営の安定的発展を図るため、県並びに関係団体と連携の下に、基幹職員を配置し畜産経営指導並びに家畜改良指導及び畜産物消費拡大、馬事振興等の多岐に亘る業務を実施した。

- (1) 畜産の担い手育成・確保・増強に向けた体制強化を図った。
- (2) 地域畜産に対する理解増進等畜産関連公益活動体制の強化を図った。
- (3) 馬事・畜産普及啓発の推進体制の強化を図った。

3 畜産特別資金指導推進事業（中央畜産会：実績額 4,890,728 円）

畜産特別資金利子補給事業の円滑な実施を図るため、宮城県大家畜・養豚経営改善推進協議会を中心として、畜産特別資金借受者 12 戸（酪農 4 戸、肉用牛 7 戸、養豚 1 戸）の農家に対し巡回指導を実施し、経営の安定合理化に努めた。

4 畜産機械施設貸付調査指導事業（畜産近代化リース協会：実績額 405,242 円）

畜産近代化リース協会が行う、貸付事業の利用拡大を図るため、畜産経営者及び関係機関に対し説明会等を開催し事業の推進を図った。

5 畜産関係団体調整機能強化事業（中央畜産会：実績額 181,808 円）

牛群検定の円滑な実施と検定加入推進のため、県内 3 組合の相互連携強化を目的として、各組合並びに関係団体を参集し、情報交換等の連絡会議を開催した。

6 公庫資金活用推進事業（農業経営サポート調査）（中央畜産会：実績額 190,000 円）

日本政策金融公庫資金の借入者 3 戸に対して、経営課題抽出及び借入後の計画作成支援等を実施し、公庫資金の円滑な償還と経営の安定化を支援した。

7 肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策事業）

（農畜産業振興機構：実績額 63,715,372 円）

近年における肉用牛生産を取り巻く状況を踏まえ、今後の肉用牛生産基盤の強化を図り、肉用牛の生産振興、生産性の向上を図る事業を支援するため、肉用牛生産集団等が行う事業に対し補助した。

区 分	事 業 内 容	農協・集団名
1 中核的担い手育成増頭推進	中核的担い手生産者が、増頭した繁殖雌牛への奨励金交付 (70 戸、235 頭)	みやぎ仙南、仙台、あさひな、古川、加美よつば、いわでやま、みどりの、栗っこ、みやぎ登米、いしのまき、宮城県配合飼料価格安定基金協会（計 11 農協等）

区 分	事 業 内 容	農協・集団名
2 優良繁殖雌牛導入支援	地域の和牛改良に必要な優良繁殖雌牛の導入に対して奨励金交付（226戸、304頭）	みやぎ仙南、名取岩沼、仙台、あさひな、古川、みどりの、栗っこ、みやぎ登米（計8農協）
3 繁殖雌牛の増頭に資する簡易牛舎等の整備	増頭を要件とする簡易牛舎等の整備（パイプハウス牛舎11棟）	全国農業協同組合連合会宮城県本部 加美よつば（計2集団）
4 肉用牛ヘルパー推進	肉用牛ヘルパー活動の推進（傷害保険料、ヘルパー利用料金）	JA みどりの和牛繁殖部会 JA 栗っこ肉用牛ヘルパー部会 みやぎ登米肉用牛ヘルパー部会（計3集団）

8 養豚経営安定対策事業（農畜産業振興機構：実績額 868,286円）

養豚事業者等を対象とした事業説明会を開催し、本事業の円滑な推進を図るとともに養豚関係者からの問い合わせに随時対応した。

内 容	開催日	開催場所	参集者
事業説明会	平成27年5月18日	大崎合同庁舎 登米合同庁舎	生産者他 16人 28人
	平成27年5月19日	大河原合同庁舎	12人

9 養豚経営安定対策事業（生産者委託：実績額 609,635円）

独立行政法人農畜産業振興機構からの養豚補てん金直接交付方式への完全移行に伴い、生産者16戸との委託契約に基づき、書類申請及び関係書類保管等に関する助言指導等を実施し、養豚経営の安定に資した。

10 乳用牛初生牛生産費調査事業（中央畜産会：実績額 183,793円）

肉用牛振興及び各種施策等の基礎資料に供するため、10戸の酪農家を対象に乳用牛初生牛の飼養管理状況及び生産費用等の調査を実施した。

11 酪農生産基盤維持緊急支援事業（中央畜産会：実績額 424,643円）

酪農生産基盤の維持・強化を図るため、後継者等を対象とした研修会を開催し、飼養管理技術の向上と担い手のネットワークを構築し酪農生産基盤の強化に努めた。

開催年月日	開催場所	参加人数	内 容
平成28年2月10～11日	東京都	宮城県参加者 3名	①「自ら考える力」を養う ② 新規就農・後継者に伝えたいこと
平成28年2月23日	大衡村	36名	北米のゲノム事情と活用法について
平成28年3月14日	大和町	52名	鳥取県における牛群検定を用いた指導事例について

12 地域畜産基盤維持継続緊急対策事業（中央畜産会：実績額 826,018 円）
 県内の養豚経営（17 戸）及び肉用牛肥育経営（20 戸）を対象にベンチマーク手法を用いた経営体調査を行った。うち、個別支援 8 戸（養豚・肉用牛肥育各 4 戸）及び 2 集団（養豚・肉用牛肥育）に対し支援を実施した。

13 みやぎの子牛生産基盤復興支援事業（肉用牛生産拡大推進事業）
 （宮城県：実績額 1,048,245 円）
 東日本大震災及び放射能汚染事故、更には飼養者の高齢化等により減少した肉用牛の増頭を推進するため、相談窓口の設置及び講演会を開催し、肉用牛経営の安定と生産基盤の育成強化に努めた。

(1) 肉用牛生産拡大相談窓口の開設

肉用牛生産拡大に向けた相談窓口を開設し、畜産経営体等から延 41 件の相談に応じた。

(2) 肉用牛生産拡大講演会の開催

生産者の意欲低下を回復させるために、肉用牛生産拡大のための講演会を開催した。

開催年月日	開催場所	参加人数	内 容
平成 28 年 3 月 10 日	美里町	39 名	① 受精卵移植技術を利用した肉用牛の増頭対策について ② 平成 28 年度の肉用牛繁殖関係事業について

14 畜産クラスター全国推進事業に係る全国実態調査（中央畜産会：実績額 240,214 円）
 畜産クラスターにおける中心的経営体の指標作成に資するため、優良畜産経営体の経営実態調査 3 戸（酪農 1 戸、肉用牛繁殖 1 戸、肉用牛肥育 1 戸）を実施した。

15 多様な担い手育成支援事業（中央畜産会：実績額 472,047 円）
 肉用牛生産基盤の維持・拡大を図るため、後継者等を対象とした研修会を開催し飼養管理技術の向上と担い手のネットワークを構築し肉用牛生産基盤の強化に努めた。

開催年月日	開催場所	参加人数	内 容
平成 27 年 12 月 8 日	美里町	28 名	① 肉用牛繁殖経営の多頭化に伴う衛生管理と疾病予防 ② 意見交換
平成 28 年 2 月 1～2 日	東京都	宮城県参加者 3 名	① 肉用牛経営を取り巻く現在の情勢と今後の課題に対応するために ② 新規就農・後継者に伝えたいこと
平成 28 年 3 月 10 日	美里町	39 名	① 受精卵移植技術を利用した肉用牛の増頭対策について ② 平成 28 年度の肉用牛繁殖関係事業について

16 畜産経営における女子力発揮推進事業（新たな地域リーダー育成のための女子力発揮事業）
 （中央畜産会：実績額 846,407 円）
 将来の地域女性リーダー候補の育成を図るため、畜産に携わる女性を対象とした意見交換会や研修会を開催し、キャリアアップとネットワークを構築し畜産現場での女性の活躍推進に努めた。

開催年月日	開催場所	参加人数	内 容
平成 27 年 11 月 25 日	大崎市	33 名	① 意見交換会 ② 畜産業における女性の仕事と生活のバランスについて
平成 28 年 3 月 8 日	登米市	16 名	① 視察研修 有限会社伊豆沼農産 ② 青森県女性との交流会 ③ 視察研修 星農場

- 17 障がい者の参画推進支援事業（畜産経営支援協議会：実績額 338,105 円）
畜産現場における障がい者の参画を推進するため、15 件（酪農 3 戸、肉用牛・養豚・養鶏各 2 戸、特別支援学校 6 校）を対象に就労実態を把握するためのアンケート調査を実施した。
- 18 国産畜産物安心確保等支援事業（中央畜産会：実績額 120,000 円）
敷料として利用されている「おが粉」の流通利用実態について県内 60 戸（酪農 20 戸、肉用牛肥育 20 戸、肉用牛繁殖 10 戸、養豚 10 戸）を対象に、アンケート調査を実施した。
- 19 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（機械導入事業）に係る事業推進業務
（中央畜産会：実績額 340,159 円）
畜産クラスター事業の機械導入事業の円滑な推進を図るため、畜産クラスター協議会等を対象に事業説明会及び事業参加要望書等の取りまとめを行った。

Ⅲ 家畜衛生対策事業

- 1 自衛防疫推進事業（協会独自事業：実績額 4,261,952 円）
自衛防疫事業を円滑に推進するため、自衛防疫推進会議並びに各地域指定獣医師定例会を開催し、家畜衛生に関する知識の普及や情報の収集・伝達に努めた。

（1）家畜自衛防疫推進会議等の開催状況

名 称	場 所	開催回数	出席人数	備 考
① 家畜自衛防疫推進会議	仙台市内	4 回	89 人	県、家畜保健衛生所職員等
② 家畜衛生専門委員会	〃	1 回	17 人	県、家畜保健衛生所長等

（2）指定獣医師定例会の開催状況

地域名	場 所	開催回数	出席人数	内 容
仙 南	大河原町	3 回	32 人	①平成 26 年度特定疾病自衛防疫推進事業実績 ②平成 27 年度特定疾病自衛防疫推進事業計画及び進捗状況 ③最近の家畜衛生情報 ④子牛市場成績 等
中 央	仙 台 市	3 回	33 人	
大 崎	大 崎 市	3 回	47 人	

地域名	場 所	開催回数	出席人数	内 容
栗 原	栗 原 市	3 回	40 人	
登 米	登 米 市	3 回	37 人	
石 巻	石 巻 市	3 回	35 人	
合 計		18 回	224 人	

(3) 家畜自衛防疫事業推進事務交付金交付実績

交付先	交付金額	備 考
市町村 (30) 及び 農業協同組合 (13)	1,156,700 円	注射負担金額 (牛アカバネ病等) 115,946,080 円×1%以内

(4) 予防接種事故見舞金

予防接種の種類	畜種	品種	交付件数
牛炭疽ワクチン	牛	乳用種	3 件
〃	〃	肉用種	1 件
牛アカバネワクチン	〃	乳用種	1 件

2 特定疾病自衛防疫推進事業 (協会独自事業：実績額 128,049,310 円)

家畜伝染病の発生予防及びまん延防止のため、地域ぐるみで予防接種を推進し、伝染病発生による損耗防止に努めた。

予防接種の種類	地域別接種頭数 (頭)						合計
	仙南	中央	大崎	栗原	登米	石巻	
(1) 豚丹毒ワクチン (生)	17,731	0	2,554	4,474	13,218	0	37,977
(2) 豚丹毒ワクチン (不)	0	0	1,200	0	0	0	1,200
(3) 豚日本脳炎ワクチン (生)	0	0	0	5	484	0	489
(4) 豚日本脳炎ワクチン (不)	0	0	40	200	0	0	240
(5) 豚三種混合ワクチン	270	0	292	79	106	158	905
(6) 豚オーエスキー病ワクチン	0	0	50	0	3,776	0	3,826
(7) 豚伝染性胃腸炎・流行性下痢 混合ワクチン	306	0	26	0	923	0	1,255
(8) 牛アカバネ病ワクチン (生)	2,091	1,618	8,599	3,518	5,493	1,255	22,574
(9) 牛炭疽ワクチン (生)	4,580	1,618	3,670	1,237	1,242	720	13,067
(10) 牛五種混合ワクチン (生)	1,147	971	5,392	3,059	4,801	1,015	16,385
(11) 牛ヘモフィルスワクチン (生)	1,190	834	4,729	518	4,498	937	12,706
(12) 牛五種混合・ヘモフィルス混合	0	0	235	2,348	0	0	2,583

3 家畜生産農場清浄化支援対策事業（農林水産省：実績額 12,280,124 円）

生産農場における牛ヨーネ病の防疫対策、豚オーエスキー病の清浄化対策及び牛アカバネ病の発生・流行防止対策を推進し、これら疾病による家畜の損耗防止を図った。

(1) 疾病清浄化支援対策

豚オーエスキー病の清浄化を図るため、県及び地域の防疫対策協議会を開催するとともに、発生状況に応じたワクチン接種、抗体検査、感染豚の淘汰等の対策を講じ、清浄種豚の流通を促進し、養豚経営の安定に努めた。

区 分	戸 数	頭 数	備 考
① 豚オーエスキー病 ワクチン接種推進費	3 戸	2,676 頭	2,676 頭×@38 円=101,688 円
② 豚オーエスキー病 清浄性確認検査	13 戸	680 頭	680 頭×@1,000 円×1/2=340,000 円
③ 豚オーエスキー病 流通種豚確認検査	6 戸	7,032 頭	検査 7,032 頭×@1,000 円×1/2 = 3,516,000 円 証明書 209 件×@400 円×1/2=41,800 円

(2) 農場飼養衛生管理強化対策

家畜伝染病予防法の一部改正により、生産者の遵守すべき飼養衛生管理基準が大幅に見直され、生産者に対し同基準を早期に周知するため、獣医師等による衛生指導の強化を図り、これら費用の一部を支援した。

地 域	農家戸数	指導回数	備 考
中 央	10 戸	10 回	酪農(10)
大 崎	11 戸	11 回	酪農(11)
計	21 戸	21 回	

(3) 伝染病発生・流行防止対策

牛異常産の原因である牛アカバネ病の発生を防止するため、ワクチン接種による対策を講じ、本病発生による損耗の防止に努めた。

ワクチンの種類	接種頭数	備 考
牛アカバネ病	22,574 頭	補助対象：22,574 頭

4 育成馬予防接種推進事業（中央畜産会：実績額 129,414 円）

馬飼養形態の集団化、大規模化及び頻繁な移動等の実態を踏まえ、競馬場入厩前の育成馬について予防接種（日本脳炎・破傷風・馬インフルエンザ）の徹底を図った。

ワクチンの種類	接種戸数	接種頭数
(1) 馬三種混合ワクチン	3 戸	5 頭
(2) 馬インフルエンザワクチン	5 戸	5 頭

- 5 馬インフルエンザ等防疫強化特別対策事業（中央畜産会：実績額 193,295 円）
馬伝染性貧血の清浄性を把握するため、在来馬、愛玩馬等の飼養・衛生状況実態調査を実施した。

(1) 馬防疫強化地域推進対策事業

区分	開催期日	開催場所	出席人数
清浄化地域推進検討会	平成 27 年 7 月 30 日	加美郡加美町	15 名

(2) 在来馬等飼養・衛生状況実態調査

調査対象馬	調査戸数	調査頭数
愛玩馬等	16 戸	72 頭

- 6 馬伝染性疾病防疫推進対策事業（中央畜産会：実績額 483,049 円）

馬生産地における伝染性疾病の防疫強化を図るため、馬ワクチン接種等地域推進対策検討会を開催し、乗用馬を対象とした馬インフルエンザワクチン接種及び軽種馬の繁殖牝馬を対象とした馬鼻肺炎ワクチン接種を推進した。

(1) 馬防疫強化地域推進対策事業

区分	開催期日	開催場所	出席人数
地域推進対策会議	平成 27 年 7 月 30 日	加美郡加美町	15 名
	平成 28 年 1 月 14 日	同上	3 名

(2) 馬のワクチン接種推進事業

ワクチンの種類	対象馬	接種戸数	接種頭数
馬インフルエンザワクチン	競走馬以外の乗用馬	5 戸	87 頭
馬鼻肺炎ワクチン	軽種馬等の繁殖牝馬	5 戸	10 頭

- 7 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業（農林水産省：実績額 26,085,863 円）

牛海綿状脳症（BSE）を早期に根絶し、生産者や消費者の安心と信頼を回復するため、牛海綿状脳症対策特別措置法に基づき、48 カ月齢以上の死亡牛全頭検査を実施した死亡牛の所有者等に対し、適正な管理・輸送・処理に係る経費を補助し、BSE 検査の円滑な推進に努めた。

また、県畜産課、家畜保健衛生所、県域団体、死亡牛収集業者等で構成する宮城県死亡牛緊急処理円滑化施設整備事業推進協議会を開催し、死亡牛の円滑な収集及び処理のための取組と良好な家畜衛生並びに環境の維持を図り畜産の健全な発展に努めた。

(1) 死亡牛検査処理安定対策

区 分	補助対象頭数			単 価	金 額
	県北地域	県南地域	計		
① 輸送費補助	1,103 頭	382 頭	1,485 頭	県北 4,500 円 県南 4,000 円	県北 4,963,500 円 県南 1,528,000 円
② 化製処理補助	1,103 頭	0 頭	1,103 頭	7,500 円	8,272,500 円
合 計					14,764,000 円

* 補助対象外頭数：7 頭（県北：7 頭、県南：0 頭）

(2) 死亡牛検査支援対策

区 分	補助対象頭数			単 価	金 額
	県北地域	県南地域	計		
BSE 検査補助	1,103 頭	382 頭	1,485 頭	4,500 円	6,682,500 円

8 家畜防疫互助基金支援事業（農畜産業振興機構：実績額 3,357,858 円）

口蹄疫や豚コレラ等の海外伝染病が発生した場合、生産者が飼養する牛及び豚の淘汰に伴う損失を、生産者による自主的な互助制度により畜産経営への影響を緩和するため、各関係者と連携を図り、互助制度の普及啓蒙を図った。

特に、最近、中国や台湾において口蹄疫が継続的に発生しており、国内での流行が懸念されるので、事務委託先等に対し未加入者の加入を推進した。

(1) 事業実施期間：平成 27 年度～29 年度（3 年間）

(2) 事務委託先：農協及び酪農団体等 17 団体

(3) 平成 27 年度契約状況（平成 28 年 3 月 31 日現在）

畜 種	契約戸数	契約頭数	積立金額
① 乳 用 牛	2,852 戸	19,258 頭	3,847,750 円
② 肉 用 牛		79,312 頭	11,191,405 円
小計 (①+②)		98,570 頭	15,039,155 円
③ 豚	69 戸	154,826 頭	6,709,055 円
合 計	2,921 戸	253,396 頭	21,748,210 円

9 畜産物衛生環境整備円滑化事業（協会事業、宮城県：実績額 19,274,007 円）

県内で発生する死亡家畜の処理を円滑かつ効率的に流通させるため、一時保管する冷却保管施設及び冷凍運搬車の利用について、死亡牛輸送業者 3 社及び関係者と協議し、家畜疾病のまん延等家畜衛生上の問題発生を未然に防止し、家畜飼養衛生環境の保全に努めた。

また、48 カ月齢以上死亡牛の BSE 全頭検査の採材場所として「宮城県死亡獣畜取扱施設」を利用し、県が実施する検査の円滑な推進に努めた。

(1) 家畜死体冷却保管施設利用頭数

区 分	成牛	育成牛	子牛	豚	馬	緬羊・山羊等	計	
頭数 (頭)	1,111	1,381	1,874	4,577	17	16	8,976	
重量 (t)	555.50	414.30	187.40	411.93	6.80	1.36	1,577.29	
1日平均	頭数 (頭)	3.04	3.78	5.13	12.54	0.05	0.04	24.59
	重量 (t)	1.52	1.14	0.51	1.13	0.02	0.00	4.32

(2) 死亡獣畜取扱施設の利用状況

畜 種	取扱頭数	取扱対象牛	BSE 検査結果	備 考
牛	1,110 頭 (1,103 頭)	48 カ月齢以上の死亡牛	全頭陰性	() 内は補助対象頭数

(3) 家畜死体冷凍運搬車利用頭数

畜 種	利用頭数	利用対象牛	BSE 検査結果	備 考
牛	382 頭 (382 頭)	48 カ月齢以上の死亡牛	全頭陰性	() 内は補助対象頭数

10 宮城県生乳取扱者認定講習会及びフォローアップ研修事業

(酪農団体：実績額 1,126,206 円)

(1) 認定委員会

学識経験者及び酪農団体の長を認定委員に委嘱し、平成 27 年度事業計画及び宮城県生乳取扱者の認定等について、委員会を開催した。

開催月日	場 所	出席人数	内 容
平成 27 年 8 月 21 日	日立システムズホール仙台	10 名	①平成 26 年度生乳取扱者研修事業実績 ②委員長・副委員長の選任 ③平成 27 年度生乳取扱者研修事業計画
平成 27 年 12 月 4 日	日立システムズホール仙台	10 名	①平成 27 年度生乳取扱者の認定 (試験結果及び合否の判定) ②フォローアップ研修会の開催計画

(2) 認定講習会

宮城県における生乳の乳質改善と今後の生乳品質格付け方法の多様化に対処するため、生乳取扱者の生乳等に関する知識及び総合的検査技術の向上と県内統一した基準に基づく生乳の検査、衛生的取扱の適正化を推進するため、講習会を開催し、9 名に認定証の交付を行った。

開催月日	場 所	受講人数	講 習 内 容
平成 27 年 10 月 19 日 ～20 日	日立システムズホール仙台	9 名	①酪農乳業情勢 ②食品衛生法 (乳等省令等) ③生乳の理化学的性状 ④牛乳の微生物と品質管理 ⑤生乳検査体制と検査方法 ⑥試験

(3) フォローアップ研修会

宮城県内における酪農乳業団体に所属し、受乳、検査、格付及び乳質改善指導等の業務に従事している職員を対象に、研修会及び意見交換会を実施した。

開催月日	場 所	出席 人数	研 修 内 容
平成 28 年 1 月 29 日	仙台市 ホテル白萩	25 名	① 乳及び乳製品の基礎科学と衛生管理について (東北大学大学院農学研究科 教授 齋藤忠夫 氏) ② 乳房炎について (宮城県農業共済組合 家畜診療研修所 技師 福田純子 氏) ③ 食品衛生法(乳等省令)について (宮城県環境生活部 食と暮らしの安全推進課 技術主査(副班長) 西村 肇 氏) ④ 意見交換会

11 自衛防疫体制強化推進事業 (家畜衛生対策推進協議会：実績額 1,914,858 円)

地域での伝染病発生時の対応等を支援するため、伝染性疾病の発生に備えた防疫演習や飼養衛生管理基準に基づく防疫対策への取り組みの啓発等の検討を行うとともに、生産者段階での防疫演習等の実施、生産現場における家畜防疫体制の強化を図ることにより、伝染性疾病の発生予防等防疫措置の徹底に努めた。

(1) 地域自衛防疫活動推進対策

区 分	開催月日	開催場所	出席 人数	備 考
地域自衛防疫活動推進対策 (防疫演習)	平成 27 年 11 月 5 日	大崎市	134 名	生産者、市町村、農協畜産団体、県畜産課及び家畜保健衛生所の担当者
	平成 27 年 11 月 27 日	仙台市	92 名	
	平成 28 年 1 月 12 日, 13 日, 14 日	遠田郡美里町	206 名	

(2) 飼養衛生管理基準啓発推進対策

区 分	開催月日	開催場所	出席 人数	備 考
飼養衛生管理基準啓発推進 (研修会)	平成 28 年 2 月 23 日	大衡村	34 名	対象(乳用牛) 生産者、農協畜産団体、県畜産課及び家保担当者

12 農場 HACCP 認証支援地域強化推進事業 (中央畜産会：実績額 1,114,272 円)

県内における農場 HACCP 認証に取り組む農場及び認証取得農場が継続的改善を図ることに対し、専門家による構築指導等を行い、地域に農場 HACCP 取組の中核となる農家を育成し、普及推進を図った。

区 分	実 績	備 考
地域取組促進活動	2 回	県、市町村、関係団体
構築指導意見交換	1 回 1 戸	養豚：1 農場
構築指導	2 戸	養豚：1 農場、養鶏：1 農場

13 獣医師養成確保修学資金貸与事業（農林水産省：実績額 3,465,102円）

獣医学を専攻する学生のうち産業動物獣医師を志す者2名に対し、獣医師養成確保修学資金を給し有能な産業動物獣医師の養成及び確保を図り、宮城県産業動物の診療体制の整備と畜産振興に寄与した。

IV 家畜価格安定対策事業

1 肉用子牛生産者補給金制度（農畜産業振興機構）

肉用子牛価格の低落に対処するため、生産者、宮城県、国の三者が1:1:2の割合で生産者補給金の交付に備え、生産者積立金を造成した。

なお、平成27年度は、肉用子牛の平均売買価格が保証基準価格及び合理化目標価格を下回らなかったため、肉用子牛生産者補給金の交付はなかった。

（平成28年3月31日現在の契約生産者は 2,864戸）

（1）生産者積立金の造成（実績額 69,916,400円）

品種区分	契約頭数 (頭)	積立金 単価 (円)	積立額 (円)	負担区分 (円)		
				生産者	宮城県	農畜産業振興機構
黒毛和種	1/1~6/30 7,849	2,200	17,267,800	4,316,950	4,316,950	8,633,900
	7/1~12/31 9,088	1,200	10,905,600	2,726,400	2,726,400	5,452,800
褐毛和種	1/1~6/30 17	11,900	202,300	50,575	50,575	101,150
	7/1~12/31 44	4,600	202,400	50,600	50,600	101,200
その他肉専	1/1~6/30 1	24,400	24,400	6,100	6,100	12,200
	7/1~12/31 0	12,400	0	0	0	0
乳用種	1/1~6/30 941	12,700	11,950,700	2,987,675	2,987,675	5,975,350
	7/1~12/31 787	6,400	5,036,800	1,259,200	1,259,200	2,518,400
交雑種	1/1~6/30 3,324	5,000	16,620,000	4,155,000	4,155,000	8,310,000
	7/1~12/31 3,211	2,400	7,706,400	1,926,600	1,926,600	3,853,200
合計	25,262	—	69,916,400	17,479,100	17,479,100	34,958,200

（2）肉用子牛生産者補給金の交付実績（実績額 0円）

平成27年度は、肉用子牛の平均売買価格が全品種とも保証基準価格及び合理化目標価格を下回らなかったため、肉用子牛生産者補給金の交付はなかった。

参考：保証基準価格・合理化目標価格・平均売買価格

(単位：円)

区 分		黒毛和種	褐毛和種	その他 肉専用種	乳用種	交雑種
保証基準価格		332,000	303,000	217,000	130,000	199,000
合理化目標価格		277,000	255,000	147,000	88,000	144,000
平均売買 価 格	第1・四半期	645,400	539,200	338,900	195,600	373,900
	第2・四半期	664,100	573,600	328,900	236,400	377,800
	第3・四半期	707,700	623,300	484,500	262,300	389,800
	第4・四半期	768,500	691,200	478,200	239,300	392,200

2 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業 (農畜産業振興機構)

(1) 運営適正化事業 (実績額 21,944,936円)

補給金制度の適正かつ円滑な運営を図るため業務推進会議の開催、事務委託先及び契約生産者に対し調査・指導を実施し、本制度加入の促進及び個体登録業務等の正確かつ迅速化に努めた。また、全国の品種別平均売買価格の算定に資するため、みやぎ総合家畜市場の肉用子牛取引情報を収集し(独)農畜産業振興機構へ毎月報告した。

(2) 運営体制支援事業 (実績額 7,086,660円)

肉用子牛生産者補給金制度を適正かつ円滑に実施するため、指定協会の運営体制の強化を図った。

3 肉用牛繁殖経営支援事業 (農畜産業振興機構)

肉用子牛生産者補給金制度を補完し、肉用子牛の四半期毎の平均売買価格が発動基準(家族労働費の8割水準)を下回った場合、当該四半期毎に販売又は自家保留された肉用子牛を対象に、発動基準を下回った額の3/4を交付し、繁殖経営の所得を確保し、肉用牛繁殖経営基盤の安定を図る。

なお、肉用子牛生産者補給金制度加入者 2,864戸のうち2,730戸が事業参加した。

(1) 肉用牛繁殖経営支援地域推進事業 (実績額 5,236,143円)

肉用牛繁殖経営支援事業の円滑な推進を図るための助言指導及び推進会議を開催した。

(2) 肉用牛繁殖経営支援事業支援金交付実績 (実績額 0円)

支援金交付対象品種である「黒毛和種」・「褐毛和種」・「その他肉専用種」について、平成27年度四半期毎の平均売買価格が発動基準価格を下回らなかったため、肉用牛繁殖経営支援事業に係る支援金の交付はなかった。

参考：平成27年度発動基準と平均売買価格

(単位：円)

区 分		黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種
発 動 基 準		420,000	380,000	280,000
平均売買価格	第1・四半期	645,400	539,200	338,900
	第2・四半期	664,100	573,600	328,900
	第3・四半期	707,700	623,300	484,500
	第4・四半期	768,500	691,200	478,200

4 肉用牛肥育経営安定特別対策事業（農畜産業振興機構：実績額 1,210,856,543円）

肉用牛肥育経営については、もと牛の導入から肥育牛の出荷まで一定の期間を要し、かつ、生産費に占めるもと畜費の割合が大きいことから、もと畜価格と枝肉価格の水準によっては大幅な収益性の悪化が懸念される現状を踏まえ、独立行政法人農畜産業振興機構補助金及び生産者積立金をもって「肉用牛肥育経営安定特別基金」を造成し、毎四半期毎（但し、平成23年7月以降は特例措置として毎月）の肥育牛1頭当たりの平均粗収益が平均生産費を下回った場合、機構理事長が定める単価を上限に肥育牛補てん金を交付し経営の安定と肉用牛生産基盤の維持拡大に資した。

平成27年度内における品種区分別補てん金交付頭数は、肉専用種0頭、交雑種1,293頭、乳用種153頭、合計1,446頭で、延べ戸数97戸に対して16,852,700円の補てん金を交付した。

(1) 推進事務費（実績額 17,559,066円）

(2) 肥育安定基金の造成（実績額 1,193,297,477円）

平成27年度造成対象期間：平成27年1月1日～12月31日）

品 種 区 分	肥育安定基金の負担区分				合 計 (円) ⑤=③+④
	生産者積立金			機構補助金 (円) ④	
	生産者積立金 造成頭数(頭) ①	生産者積立金 単価(円) ②	造成額 (円) ③=①×②		
肉専用種	2,780 13,666	18,000 10,000	50,040,000 136,660,000	560,100,000	
小計	16,446		186,700,000	560,100,000	746,800,000
交 雑 種	687 3,530	30,000 25,000	20,610,000 88,250,000	326,580,000	
小計	4,217		108,860,000	326,580,000	435,440,000
乳用種	80 58	20,000 17,000	1,600,000 986,000	7,758,000	
小 計	138		2,586,000	7,758,000	10,344,000
果実収入			184,693	528,784	713,477
合 計	20,801		298,330,693	894,966,784	1,193,297,477

(3) 平成27年肥育牛特別補てん金交付実績総括表 (H27年度実績額 16,852,700円)

販売月	品種区分	免除の有無	交付対象		肥育牛補てん金	
			人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付額 (円)
平成27年 2月	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	交雑種	通常	22	356	3,200	1,139,200
		免除	0	0	0	0
		合計	22	356		1,139,200
	乳用種	通常	4	33	63,600	2,098,800
		免除	0	0	0	0
		合計	4	33		2,098,800
	小計	合計		26	389	
				0		0
				389		3,238,000
平成27年 3月	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	交雑種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	乳用種	通常	3	34	57,100	1,941,400
		免除	1	1	42,800	42,800
		合計	3	35		1,984,200
	小計	合計		3	34	
				1		42,800
				35		1,984,200
平成27年 4月	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	交雑種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	乳用種	通常	3	30	28,800	864,000
		免除	0	0	0	0
		合計	3	30		864,000
	小計	合計		3	30	
				0		0
				30		864,000
平成27年 5月	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	交雑種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	乳用種	通常	4	27	24,700	666,900
		免除	0	0	0	0
		合計	4	27		666,900
	小計	合計		4	27	
				0		0
				27		666,900
平成27年 6月	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	交雑種	通常	17	329	10,600	3,487,400
		免除	0	0	0	0
		合計	17	329		3,487,400
	乳用種	通常	3	26	12,900	335,400
		免除	0	0	0	0
		合計	3	26		335,400
	小計	合計		20	355	
				0		0
				355		3,822,800

販売月	品種区分	免除の有無	交付対象		肥育牛補てん金	
			人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付額 (円)
平成27年 7月	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	交雑種	通常	20	301	18,500	5,568,500
		免除	0	0	0	0
		合計	20	301		5,568,500
	乳用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	小計	合計		20	301	
				0		0
				301		5,568,500
平成27年 8月	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	交雑種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	乳用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	小計	合計		0	0	
				0		0
				0		0
平成27年 9月	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	交雑種	通常	19	307	2,300	706,100
		免除	0	0	0	0
		合計	19	307		706,100
	乳用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	小計	合計		19	307	
				0		0
				307		706,100
平成27年 10月	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	交雑種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	乳用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	小計	合計		0	0	
				0		0
				0		0
平成27年 11月	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	交雑種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	乳用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		0
	小計	合計		0	0	
				0		0
				0		0

販売月	品種区分	免除の有無	交付対象		肥育牛補てん金		
			人数	頭数	単価	交付額	
			(人)	(頭)	(頭/円)	(円)	
平成27年 12月	肉専用種	通常	0	0	0	0	
		免除	0	0	0	0	
		合計	0	0		0	
	交雑種	通常	0	0	0	0	
		免除	0	0	0	0	
		合計	0	0		0	
	乳用種	通常	0	0	0	0	
		免除	0	0	0	0	
		合計	0	0		0	
	小計	合計	0	0		0	
	平成28年 1月	肉専用種	通常	0	0	0	0
			免除	0	0	0	0
合計			0	0		0	
交雑種		通常	0	0	0	0	
		免除	0	0	0	0	
		合計	0	0		0	
乳用種		通常	2	2	1,100	2,200	
		免除	0	0		0	
		合計	2	2		2,200	
小計		合計	2	2		2,200	
合計		肉専用種	通常	0	0		0
			免除	0	0		0
	合計		0	0		0	
	交雑種	通常	78	1,293		10,901,200	
		免除	0	0		0	
		合計	78	1,293		10,901,200	
	乳用種	通常	19	152		5,908,700	
		免除	1	1		42,800	
		合計	19	153		5,951,500	
	小計	合計	延べ 97	1,446		16,852,700	

(4) 緊急支援金等返還業務

緊急支援金等交付対象者へ返還請求書を発行し、農畜産業振興機構への返還業務を実施した。

①緊急支援金等交付実績

資金名	対象者数(人)	交付頭数(頭)	交付金額(円)
緊急支援金	501	37,026	1,851,300,000
出荷遅延支援金	315	7,958	5,758,440,000
価格低下支援金	61	510	79,630,000
計	延べ 877	45,494	7,689,370,000

②返還額（生産者からの返還額）

（平成 28 年 3 月 31 日現在）

資金名	返還済額（円）			未返還額（円）
	23～26 年度	27 年度	計	
緊急支援金	1,849,750,000	1,850,000	1,851,300,000	0
出荷遅延支援金	5,162,890,000	318,980,000	5,481,870,000	276,570,000
価格低下支援金	76,030,000	3,600,000	79,630,000	0
預り金	24,198,000	▲15,267,180	8,930,820	▲8,930,820
計	7,112,868,000	309,162,180	7,421,730,820	267,639,180
未返還者からの 受取利息 (H27 年 10 月から)		1,101,728	1,101,728	

5 肉牛事故共助推進事業（全農宮城県本部：実績額 55,866,669 円）

肉用牛生産者並びに出荷者団体からなる基金を造成し、全農宮城県本部が販売する肉牛に発生する事故に対しその損害を補償し、肉牛経営の安定を図った。

(1) 肉牛事故共助推進事業費 1,308,020 円

(2) 肉牛事故共助金 54,558,649 円

品種	頭数	金額
肉専用種	831	49,344,793
乳用種	20	4,104,804
交雑種	22	1,109,052
計	873	54,558,649

(3) 肉牛事故共助積立基金 (円)

前年度繰越額 A	受取積立額 B	受取利息 C	交付額 D	今年度基金残高 A+B+C-D
25,469,299	51,977,102	4,681	54,558,649	22,892,433

V 家畜改良対策事業

1 家畜人工授精用精液流通調整事業（協会独自事業：実績額 186,062,919 円）

本県の家畜改良を円滑に推進し、乳牛及び和牛の生産拡大を図るため、宮城県畜産試験場繋養の種雄牛を主体に、県内7ヶ所のサブセンターにおいて、家畜人工授精師等に対し凍結精液の供給と液体窒素の配送を行うとともに、計画的交配の指導を実施し、家畜の改良増殖の推進と畜産経営の安定と発展に資した。

凍結精液供給本数

和 牛			乳 牛	液体窒素	備 考
県有牛	事業団等	計	事業団等		
本 43,979	本 7,371	本 51,350	本 6,306	kg 42,174	

2 畜産共進会の開催等（実績額：6,208,980 円）

(1) 宮城県総合畜産共進会の開催（実績額：2,658,980 円）

家畜の改良意欲の高揚と飼養管理技術の向上を図るため、乳用牛、肉用牛、肉豚を対象とした総合畜産共進会を開催した。

区 分	開催年月日	開催場所	出品頭数
乳用牛	平成 27 年 9 月 12 日	美里町みやぎ総合家畜市場	53 頭
肉用牛	平成 27 年 9 月 11 日～12 日		107 頭
肉 豚	平成 27 年 9 月 2 日～4 日	登米市宮城県食肉流通公社	92 頭

(2) 第 11 回全国和牛能力共進会宮城大会等に係る負担金（実績額 3,550,000 円）
第 11 回全国和牛能力共進会宮城大会等の事業経費の一部として負担した。

3 種豚登録関連事業（日本養豚協会：実績額 559,440 円）

近年の養豚生産構造の変化に対処するため、登録関連制度の普及啓蒙と質的向上を図るため登録対象豚の選抜並びに適正な登録事業を推進した。

また、交配品種の多様化に伴なう素豚の品質低下を防止するため、一代雑種豚血統証明等を含めた種豚登録事業を推進した。

登記・登録実績

(件)

区 分	種豚 登録	一腹 記録	子豚 登記	一代雑種豚 血統証明	各 種 移動証明	系統種豚 証明
実 績	151	151	307	8	3	4

4 乳用牛群検定普及定着化事業（宮城県：実績額 702,318 円）

牛群検定加入者の推進を図るため、5 名に検定推進を依頼し、県内の非検定農家を対象に巡回推進を行うとともに、併せて既検定農家の巡回指導を実施した。

（非検定農家推進戸数 9 戸、既検定農家巡回指導 6 戸）

5 乳用種雄牛後代検定事業（家畜改良事業団：実績額 155,736 円）

遺伝的に優れた能力を有することが証明された種雄牛（検定済種雄牛）を計画的に作出し、広域的な利用を行う精液の保管と配送を行った。（調整交配配布本数 756 本）

VI その他

1 専門委員会

家畜衛生事業、和牛改良事業の推進に係る懸案事項について検討するため、各専門委員会を設置し事業の円滑な推進を図った。

2 褒賞の授与

畜産に関する各種共進会、共励会において成績優秀な者に対し褒賞を授与した。

3 畜産普及広報活動

(1) 県内の畜産情報並びに技術の普及拡大を図るため、「畜産みやぎ」を年 6 回発行した。

(2) 月刊「畜産コンサルタント」誌並びに指導資料を配布し、畜産技術の普及啓蒙を図った。